

日 愛

ご自由にお持ち帰り
ください

2024.SPRING
No.6

Contents

P1～P2 特別な1年

P3 泌尿器科常勤体制へ

P4 高齢者の転倒予防

P5 患者様へのお願い
～録音、撮影の禁止について～

D A N



中核医療センター・地域医療支援病院
霧島市立医師会医療センター

Photo Gallery
 辞令交付式
 採用オリエンテーション
 2024



特別な一年

病院長 河野 嘉文

あまり寒さを感じなかった冬が終わり、例年より遅い桜を悪天候の中で楽しみ、二〇二四年度（令和六年度）が始まりました。隼人町松永三三三〇番地では建設工事が順調に進み、六階建ての新病院が少しずつイメージできるところになっております。「霧島医療センター」という表示が建物に掲げられる日も近くなるにつれて、数年前から始まった新築移転計画も最終段階に達しております。新病院で市民の皆様へ提供予定の医療は、院長の頭の中では内容の濃さで現病院の二倍近いと考えております。

例えば、救急医療の現場においてはすでに年間三、五〇〇台の救急車を受け入れ、これまでの二、〇〇〇台に比べて1.5倍以上になっております。従来始良地区ではできませんでしたが、最近のがん診療では必須のPET-CT検査や、泌尿器科手術に必須のロボット導入などを予定しており、これらに対応できる人材確保も進めております。麻酔科医の確保の難しさでこれまでは土日の手術ができませんでしたが、今年度からは時間に制限はあるものの土日も手術ができる体制を整備することができました。これまで以上に安心して地域の基幹医療機関としての霧島医療センターをご利用いただけると考えております。

もちろん、今後対応しなければならない課題も山積しております。まずは医療人材の確保、次に現在の保険診療制度下での収益の確保、そして当地区のみならず日本全体の人口構成の変化です。病院は二十四時間稼働しておりますので、夜間・休日問わず多くの職員が勤務しております。成熟した現代の日本社会で夜間休日に働きたい人は非常に少なくなっています。職務に意義を感じて勤務してもらえない人材の確保は、病院として最重要課題であり、終わりのない継続課題です。医療の経済性については意見が分かれるところですが、公立病院は採算性が悪い救急医療や小児医療を中心に取り組むため、全国の国公立病院で急性期医療提供だけで赤字になる病院はほとんどないのが実情です。三番目の人口構成の変化は病気の種類の変化でもあります。当院のような地方にある基幹病院では、がんや循環器疾患に加えて、肺炎、心不全、骨折を中心とした老人医療需要が大きくなっています。しかし、それらは高齢者人口が減少する時代には変化すると考えられます。現在必要な医療機器はそのうち必要なくなるかもしれません。当然、外来患者数や入院患者数が減少して病院を縮小する時代が来ると予測



されますが、それがいつになるかの予測は極めて難しいです。四十数年前に私が小児科医になろうとしたときに、恩師のある教授は「これから子どもの数が減っていくのだから小児科医は必要なくなるよ」と言われました。私の医師人生の終盤になった現在でも、まだまだ小児科医が不足しています。確かに日本の出生数は当時の年間一五七万人から年間七十三万人と半減したにも関わらず、です。需要と供給のバランスは時代によって変化するため、将来予測の難しさを物語る例だと思えます。現時点で二〇二五年二月一日オープンを目指して全ての準備が順調に進んでおります。新しい病院施設と医療内容は、当院職員と市民の皆様との共同作業で発展させるべきものだと考えております。施設設備を提供する霧島市と病院機能を提供運営する始良地区医師会、そして皆様との三位一体で新しい霧島医療センターが船出できるようによろしくお願い申し上げます。

二〇二四年四月





整形外科



高齢者の転倒予防

整形外科部長 益田 義幸

整形外科とは運動器を構成するすべての組織、つまり骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの疾患、外傷を対象とし、その病態の解明と治療法の開発および診療を行う専門領域で、運動機能の改善が目標となります。その対象は脊椎（腰椎、骨盤、上肢（肩、ひじ、手、手指））下肢（股、膝、足、足趾）など広範囲に及びます。患者数は、全国でも、内科の次に多い科になります。

当院でも毎年五五〇件以上の手術をしており、約三割は股関節の骨折の手術になります。

高齢者の事故の救急搬送の八割以上は転倒が原因で、年々増加しており、転倒予防が骨折の予防につながります。高齢者は、サルコペニア（筋肉量の減少）、フレイル予防が重要で、食事に関しては、若年者よりも多くの動物性たんぱく質を摂取する必要があります。

また、骨粗鬆症検査は全人口の約五%の受診率ですが、世界的にも骨折予防の有用性は認められており、骨密度の増加は再骨折率を減らすことに有効と考えます。

筋肉を鍛え、肉を食べて、人生一〇〇年時代を乗り切りましょう。



泌尿器科



常勤体制へ変更のお知らせ

泌尿器科部長 杉田 智

表. 前立腺がんの罹患数と死亡数の推移
 (国立がん研究センターがん情報サービスより転載)

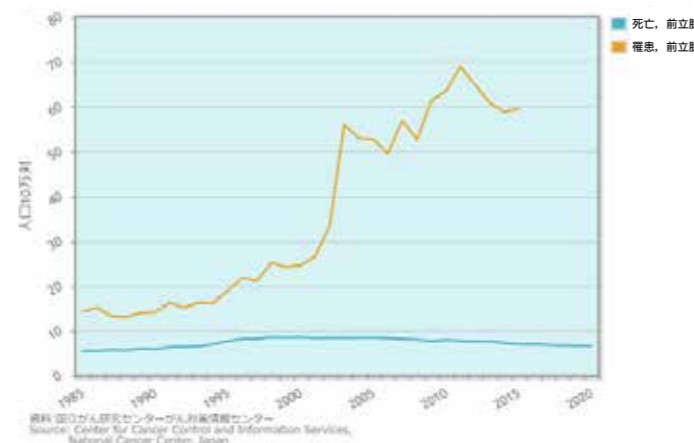


表. 膀胱がんの罹患数と死亡数の推移
 (国立がん研究センターがん情報サービスより転載)



二〇二四年四月から泌尿器科が常勤医二人の体制となり新たなスタートをきりました。以前までの週一回の外来診療のみを行っていた状況とは変わり、今期から入院診療が可能となり手術を含めた幅広い泌尿器科疾患の治療ができるようになりました。

私たち泌尿器科は腎臓や膀胱など尿路（尿が作られ排泄されていく通路）の病気を中心に取り扱う診療科です。腎がん、膀胱がん、前立腺がんなどの悪性疾患、排尿障害、尿路結石、尿路感染症などの診断、治療を行います。

近年、日本人の二人に一人が生後うちに一度はがんと診断されるといわれています。特に前立腺がんは増加しており、日本人男性において最も多いがんとなっています。また腎がん、膀胱がんなど他の泌尿器科がんにおいても増加している傾向にあります。こうした状況のなか、当院でも泌尿器科がんに対して診断から治療までを一貫して行える体制をつくる必要があると考えています。そのために、まずは今ま

で霧島地区では難しかった腹腔鏡下泌尿器科手術の導入を予定しています。腹腔鏡手術とはおなかの中の空間にカメラを入れて行う手術で、患者さんにとっては、小さく、術後の痛みは少なく、術後の回復が早いといわれています。当院では泌尿器科常勤医二人が腹腔鏡技術認定医であり、手術を安心して受けることができると考えます。

また排尿障害、尿路結石、尿路感染症など泌尿器科疾患全般に対応できるように診療体制を整えていく予定です。

この度、泌尿器科が新しい体制として始動いたしました。まだ十分に行き届かない点があり、ご迷惑をかけることがあります。当院で新たな治療を行えるようにすること、霧島市を中心とした地域医療に貢献できるように尽力してまいります。これまで鹿児島市や関東関西地域の病院に入院しておこなっていた手術や薬物治療などを当院でおこなえるようにしていきたいと考えています。



患者様へのお願い

録音、撮影の禁止について

当院では、患者さんやご来院の皆様および病院スタッフの個人情報やプライバシー保護のため、病院敷地内での許可のない写真・動画撮影、録音、SNSを含むインターネットへの投稿を一切禁止しています。



カメラ撮影



スマホ撮影



ビデオ撮影



録音



SNS 投稿

特別な理由により撮影・録音を希望される方は、事前に担当医にご相談ください。なお、ご相談いただいた場合でも許可できない場合がありますので、ご了承ください。

病院敷地内での
撮影・録音
は禁止です

No photos or videos can be taken.

当院では、患者さんやご来院の皆さまおよび病院スタッフの個人情報やプライバシー保護のため、病院敷地内での許可のない写真・動画撮影、録音、SNSを含むインターネットへの投稿を一切禁止しています。

特別な理由により撮影・録音を希望される方は、事前に担当医にご相談ください。なお、ご相談をいただいた場合でも許可できない場合がありますので、ご了承ください。

霧島市立医師会医療センター 病院長

▲ 院内掲示のポスター ▲

↓ 職員募集中 ↓

Instagram



@KIRISHIMA_MEDICAL_CENTER

看護部Instagram



@KIRISHIMAMC_JOBOFFER

ホームページ



編集後記

季刊誌「暖」は2022年秋にリニューアルし、第1号より表紙に新病院外観イメージ図を使用しお届けしてきましたが今回は病室イメージ図にしてみました。暖バックナンバーも引き続き院内で配布していますので併せてお手にとっていただけたら嬉しいです。



〒899-5112 鹿児島県霧島市隼人町松永3320番地

霧島市立医師会医療センター

TEL 0995-42-1171 (代表) FAX 0995-42-2158

受付時間 8:30～11:00

診療時間 8:30～17:00

休診日 土・日・祝・年末年始